

## 研修報告書No. 26

所属：県外大学病院研修医

研修先：本山町立国民健康保険嶺北中央病院  
大川村国民健康保険小松診療所  
高知市土佐山へき地診療所

### ・県外在住医師から見た高知の地域医療の現状

今回、主に研修させていただいた嶺北中央病院は、四国三郎といわれる吉野川流域に位置し、周りを山々に囲まれ、自然環境の豊かな場所にある嶺北地域では唯一の一般病床をもつ病院であった。診療圏は、本山町、大豊町、土佐町、大川村の嶺北4町村の診療圏人口は約13,000人であり、高齢化率45%ということである。

この地域は、高齢化・過疎化と医師不足という問題を抱えた地域であった。以前は、恵まれた森林を生かした林業が盛んであったが、外国からの安い輸入木材に押され廃れていることもあり、若い人々は都市部に移り住んでいるようであった。吉野川上流の山間部に位置しているため、吉野川の水はいつ見ても非常にきれいで川底まで見えるエメラルドグリーン色であったが、集落同士の距離は車で30分ほど離れており、集落の中でも各々の家が点在していた。唯一の公共機関は、バスであったが、1時間半に1本ある程度であった。このため、病院への送迎は村の車で週一回行うというサービスが行われていた。高齢で車を運転できない方は買い物に行くこともできないため、送迎をしてくれるスーパーまであるという。

嶺北中央病院は医師不足の地域にあり、病院の多くの先生は自治医科大学出身であった。やはり、このような地域では総合医というように何でもできる先生が多く、GF・CFから心エコーもされていて、自分が研修してきた病院との違いを痛感した。県内のほかの病院で、勤めていたときには自分一人でレントゲン撮影から現像、CT撮影、採血の結果を出す、薬を処方し袋に詰めるなどしたこともあったそうだ。都市部の病院では、専門が細分化されているが、このようにさまざまな疾患に対応し、高いgeneralityを必要とされる環境も多く、多くの経験が積める場所であると感じさせられた。

### ・研修内容に対する意見

特に印象に残ったのは、診療所での研修であった。診療所では外来の診察を手伝わせていただいたが、患者数自体は都市部の大病院と比べると少ないけれども温かみを感じるものがあつた。医師が患者さんのことを、本人の性格から家族背景やご近所さんの人間関係までよく知っていると感じた。診療所で見る患者さんは、多くが急性期疾患ではない高齢者が多く、認知機能が落ちているが一人暮らしをしている方もよく認められたのでこういふことが求められるのだろう。

また、嶺北中央病院では、入院患者さんの診察や外来見学を主にさせてもらった。普段

研修している病院で、状態がひと段落したがまだ退院は出来ない患者を転院させた後の状況を見ることが出来大変勉強になった。急性期病院では、それほど保険点数のことを考えず気軽に検査をオーダーしているが、保険点数のことを考えなるべく検査を最小限にしようという意図を感じた。ついつい、普段、採血やレントゲン検査などを頻繁に行ってしまうがちであったが、検査回数を少なくすることの重要性を再認識させられた。また、外来見学は、非常勤医師として来られている高知大学医学部附属病院の先生の診察を見させていただいたのだが、診療応援での外来の様子を見ることがや急性期病院に紹介する様子は普段の研修病院では見ることのできないことであったので興味深かった。

・今回の臨床研修で得たと考えられるもの

普段の研修とはある意味逆の視点から医療を見ることが出来たのはとても貴重な体験であったと思う。研修医は、急性期患者を紹介される病院そして少し落ち着いた患者を紹介する病院で研修することが多いと思うが、今回はそういった面で反対の病院で研修できた。それぞれの病院で、求められることや留意する点が違うことが分かった。

最後になりましたが、院長の佐野先生、オーベンの稲垣先生をはじめ指導して下さった先生方、また時間を割いていろいろ教えてくださったコメディカルの方々、大変お世話になりました。